

## 「自然の叡智に学び、環境社会の未来を拓く、環境科学部」

### 環境科学部の今後 10 年の将来構想

滋賀県立大学は、2010 年から 2020 年までのおおむね 10 年間で目指すべき目標を大学の方針として、「滋賀県立大学将来構想 ―USP2020 ビジョン―」（2010 年 5 月）に示している。

「知と実践力をそなえた人が育つ大学」をスローガンに以下の 3 点を 10 年後の本学の姿とする。

1. 教育を重視し、学生の満足度が高い大学
2. 社会のグローバル化や時代の変化をとらえた大学
3. 地域や産業界と連携し、創造的な研究に取り組む大学

環境科学部では、これら 3 つを達成するために、(1)教育、(2)研究、(3)社会貢献、(4)国際化について、以下を目標とする。

#### (1) 教育

「学士力（社会人基礎力）」を養うために、「地域に学ぶ」また環境フィールドワークを核とする実践的教育、臨地教育を積極的に展開する。きめ細かい学生教育のために少人数教育の充実を図る。このために、学科組織の再編や学生・教員定員の見直しの議論を行い、教員配置とカリキュラムについて、学部横断的な見直しを行う。また、卒業後の進路に対応し、専門職業人としての知識が習得できる履修モデルを学科ごとに作成する。さらに、FD を活用した教育方法の改善、講義教材の開発などを学部、学科として取り組む。

「環境科学」の基盤構築のために、大学院教育の充実をはかる。「近江環人地域再生学座」を中核として、学部教育との連携を図るとともに、地域貢献のさらなる充実を目指す。また、「環境科学」「環境学」に関わる高度専門職業人の養成のために、国際レベルの教育の展開をめざす。

#### (2) 研究

「滋賀県」「琵琶湖」の自然、環境、風土を対象とする研究をベースに、先進的かつ創造的研究の展開を目指す。そのために、地域社会、地域の自治体、産業界、試験研究機関などとの緊密な連携を大きなベースとする。そして、「地域から世界へ」をスローガンとし、研究の国際化の推進のために、国外の大学や研究機関などとの積極的な国際研究交流を促進させ、国際共同研究の充実を図る。さらに、環境問題の解明からその解決まで、環境学の体系化をめざす。そのために、他学部や、他大学、他研究機関との共同研究を積極的に展開する拠点となることを目指す。

#### (3) 社会貢献

地域に開かれた大学として、大学と行政、大学と企業、大学と市民など様々なチャンネルを強化し、地域的な問題の解決を目指す。教育・研究・地域貢献をそれぞれ切り離すことなく、公立大学としての総合的機能を発揮するなかで、地域社会の信頼、評価を高める

努力をおこなう。具体的には、環境生態、環境政策、資源管理、建築計画などの分野を擁する環境科学部の特徴を活かして、分野横断的な企業間ネットワークを構築することで産学連携を推進する。また、地域産学連携センター、環境共生システム研究センターとの学内連携を図る一方、地方自治体、企業、NPO等とも連携をとりながら持続可能な社会実現に向けて地域課題解決に取り組む。さらに、「近江楽座」「近江環人地域再生学座」を核として、学生力を活かした地域貢献活動を推進する。

#### **(4) 国際化**

世界規模で環境問題に取り組む優秀な学生を育てるべく、国際的に活躍するに相応しい環境創造の知識やコミュニケーションの素養、異文化への理解力、研究プレゼンスを持った人材育成に努める。具体的には、国際通用性を備えた環境科学者の育成をめざして、各学科において演習課題や合同ワークショップなどを通じて、外国語（主に英語）によるプレゼンテーション、ディスカッションの機会を設ける。また、環境科学研究や環境共生技術等に秀でた協定校等との積極的な交流を推進し、海外研究交流を行う。本学を目指して留学・渡航してくる学生をスムーズに受入れるための体制の整備を行う。例えば国際招聘研究者、講演者等の短期滞在のケースに適切に対処すべく、国際交流支援型ゲストハウスの整備を検討する。